



I T C Council No.8

NEWSLETTER

Vol.28 No.1 Sept. 25th

カウンスルNo.8テーマ
学びほぐし Unlearn

I T Cテーマ
You Raise Me Up
—優しさと励ましのコミュニケーション



学びほぐし

カウンスルNo.8 第28期会長

八尾 和子

国際の解散を受けて、今期新生 ITC は、名称も、ロゴも、宣誓も慣れ親しんだ今までのままでスタートを切りました。ひとまず安堵したとは言え、生みの苦しみとでも言いましょうか、8月以来配信されたメールの数は30を超え、様々な事柄へのクラブの対応が求められています。これを改革のチャンス、クラブの意見を上部に吸い上げるボトムアップの良い機会と捉え、大変とは思いますが真摯に対応してまいりますようお願いいたします。

カウンスル No.8 は 1990 年 8 月、カウンスル No.1 から 7 クラブで分割独立して以来 27 年、最盛時は 12 クラブ 245 名が在籍しましたが、今回の国際解散後は、共に学んだ 3 クラブ約 40 名が退会し、8 クラブ 78 名と寂しくなっていました。加えて、少人数クラブが多く、会員の高齢化が追い打ちをかけて、活動力が大幅ダウンとなっており、かつてない窮状に直面しております。

そこで今期のテーマを「学びほぐし」—Unlearn—といたしました。

哲学者 鶴見俊輔氏の言葉を借りれば「型どおりにセーターを編み、ほどいて元の毛糸にもどして自分の体に合わせて編みなおす」、つまりいったん学んだ知識や既存の価値観を棄て去り新たに学び直すこと、ステレオタイプを崩すということです。人は、組織の中で周りに世話になりながら、経験を積み重ね成長していきます。そして、10 年もすると、その組織で通用するような仕事の仕方や、物の考え方、ことばなどを身に付けます。しかし、一方で、視野はその組織内に限定され、あまり拡大しなくなり、ある程度熟達すると、人の物の見方はステレオタイプ化していくのが常です。

カウンスル No.8 においても、今後は状況の変化を踏まえて、無理なく無駄なく身の丈に合った活動をしていくことが必須になってきます。また今まで自己研鑽に励んで向上させてきた個の力を、新人や新しいクラブなど誰かのために活かしていただくことが重要になってきます。皆様のご協力よろしくようお願いいたします。

カウンスル役員の皆様への4つの質問

1. 今期の展望と抱負
2. あなたの癒しの場所(時、物などでも)は?
3. 3年後(2020年)のあなたは?
4. あなたの憧れる人はどんな人ですか?

会長 八尾 和子

1. 国際解散の影響で、8クラブ78名に減少したサイズに見合った無理、無駄のない身の丈に合った活動。
2. 海(眺める)、寄席及び落語会。
3. 病気、けがが無ければ今とあまり変わらない。人生2度目のオリンピック観戦を楽しんでいる?
4. 周りに惑わされずに、しっかり自分を持っている人。

書記 饗場嗣祈子

1. 今日まで学んできた ITC 精神を忘れず、今の時代のニーズに即した組織作りのなかで、新たな一歩踏み出したカウンスルNo.8の活動をするとともに書記の職務を全うしたい。
2. 忙しかった一日が終わり、ベッドの中で読みかけの本を読みながら眠りに落ちる時。
3. 人間、明日のことは分かりませんが、何事もなければ元気で人生を楽しんでいるでしょう。テレビで東京オリンピックを観ているでしょう。そうであれば幸せなことと思います。
4. 誠実さと正直さ、そうして謙遜さを兼ね添えた人。信念のために躊躇なく変われる「ブレない人」。

第一副会長 松岡 美保

1. より多くの参加者、より多くの入会希望者につながる魅力的なプログラムを、魅力的な場所で提供することに努めます。
2. 5年ぶりに生まれた上野動物園のパンダの赤ちゃんをテレビのニュースで見る時。
3. 今よりもっとおばあさん。
4. 年齢を重ねるごとにしなやかな思考が出来、上品で、おしゃれのセンスが良い人。

会計 市橋 和子

1. この躍動の年を好機と捉え、ITCの根本を見つめていきたいと思えます。会計はたゆまず、休まず、しっかりと。
2. 春夏秋冬、林の中を歩く事が好きです。なかでもブナ林が一番。
3. 現在の体力維持が出来ていれば、変わらず、ばあば業始め、忙しい日々を過ごしていると思えます。
4. 年齢と共に忍耐力、集中力の低下を実感しています。好きな事に真剣なまなざしで見つめる子供の集中力に憧れます。

第二副会長 小菅あけみ

1. 東北地域クラブの支援・増強
2. 長野にいる孫とのスカイプ英会話の時間
3. リハビリバレエを続けていたい(希望)
4. どんな状況でも希望を持ち続ける人

議会議長 林 栄子

1. ITCの誕生、全員参加で育てていく楽しみをあげよう。1+1運動で会員増をめざす。会員増は元気の素。
2. わが家、「亭主元気で留守がよい」これこれ！自分のための極上の時間を過ごすこと。
3. リハビリ中の身3年後は晴れて・・・夢見る私がいる。東京オリンピック、元気な2人で多種目の観戦に行くこと。
4. 二人の母親、明治生まれの義母、大正生まれの私の母。沢山の事を教わり今の自分がある。母たちの荷物の整理をしながら手が止まる。あと少し、頑張ってみようと思う。



第 28 期クラブ運営研修会 報告



台風襲来が懸念されたが台風は早々と北上。青空と猛暑のさなか、第 28 期クラブ運営研修会は、8 月 8 日（火）東京ウィメンズプラザにて無事開催された。7 部門、会長・第一副会長・第二副会長・書記・会計・カウンスルへの派遣員・議会法規役員の研修が行われた。



スピーチコンテスト部門は、新しいルール作りが行われて後、あらためて実施されることとなり、今回は行われなかった。リーダーを含め 32 名が参加。

例年よりも小規模となったため、インフォーマルな、和やかな雰囲気での研修会となった。

- 13:00 松岡第一副会長の司会でスタート。時間割説明と八尾会長の挨拶が行われ
- 13:05 7 部門に分かれ、部門別研修が行われた。各部門、欠席者や他部門参加者が目立ったが会長部門は 1 名欠席、7 名が参加。時間不足になるほど、活発な意見交換が行われた。
- 13:55 全体会。各リーダーがテーブルで行ったことを 3 分で報告。質疑応答に移った。
 *書記のその他の任務とは？ロスターの作成、お祝いやお悔やみカードの作成も含まれる。
 *会員番号は今後どうなる？次が決まるまで現在のものが使用できる。新しい組織になったとき、頭にカウンスル番号を入れてはどうかという提案があった。
 *今後の会則は？「こんな会則がいい」と会員から提案してほしい。会則は簡潔に、A4 一枚に収まり切れればベスト、人は必要ないことは読まないから、などの意見が。
- 14:50 第一回カウンスル会合のアナウンスメント。松岡第一副会長より以下の要請があった。
 「10 月 30 日（月）ウィメンズプラザにて行います。担当クラブは、蕨崎、横浜だが、全クラブが協力して取り組んでほしい」

＜いったん、閉会后、次のセッションに移る＞

- 14:55 組織の今後についての説明と意見交換会
 小菅あけみさん（DV4 副会長）よりシアトル世界大会における解散決議の経緯と、今後のリージョンの連携の在り方について説明があった。また日本リージョン、会計役員の山内昌子さんが 8 月 29 日の第一回組織検討委員会の開催について説明した。



会場の関心事は、“9 月例会で ITC 宣誓をどう扱うか？”「我々 ITC のメンバーは…」という文言がある以上、もう従来のものを使うのはおかしい、いやあの宣誓は例会の目的意識を高めるためであり必要、宣誓は会スタートの発声練習にもなりあった方が良く、などなどの意見が。旧宣誓を便宜上、一時的に使うか、リージョンから指示があるまでは各クラブで対応するという結論は出ずじまい。この NL が届くころには、各クラブでは、どう対処されたでしょうか？

- 15:30 終了

（文責：編集者）

ITC 世界大会最後のワークショップに参加して 荏崎クラブ 山口久美子

「世界大会で『素朴なコロンブス』のワークショップ（WS）をしよう。」と斉木ゆかり（横浜）さんから誘われたが、英語が話せない私は「世界大会は無理」と尻込みをしていた。しかし、斉木さんを頼りに日英両語でWSを行うことにした。一足先にシアトルに着いていた私に斉木さんから「足の怪我が悪化して世界大会には不参加。」というメールが届いた。人生は思い通りには進まない。さて、どうする！このWSにはすでに申込者多数と聞いていた。みんなの期待に応えるためにも現地で筆本美智子（梅田）さんに代役をお願いした。



PLからの「3日前に二人は急きょコンビを組んだ。」という説明に、50人以上の参加者たちはどよめきながらも笑顔で温かく迎えてくれた。「素朴なコロンブス」というのは、小さな発見が私たちを幸せにしてくれることに気づくこと。まさに私は、このWSを通して「英語が話せなくても世界の会員と心一つにした交流ができる。」という嬉しい発見ができて幸せだった。



日本からの参加者、にっこり勢ぞろい



クラブ会長テーマ

東京クラブ(41期) 浅井 正子 『歴史に学ぶ』

80年におよぶ ITC の歴史が突然途切れ、先行きがはっきりしないスタートとなりました。歴史が途切れたのには何か原因があるはず、私たちもクラブの長い歴史を振り返ってみる必要があるのではないかと考えました。未来に繋げていくためには、今までの活動方法で良いのか、どんな改革が必要か、会員数を維持するにはどうしたら良いのかなどを考える今が良い機会と捉え年間テーマを「歴史に学ぶ」と致しました。

東葛クラブ(30期) 根岸 千代 『誰かのために』

長年続けてきた ITC はひとえに「自分を磨く」ということが目的でした。これまで ITC から色んな力をいただきました。30年目になろうとしている今(ちょっと息切れしそう)、これまでの訓練、時間、お仲間感謝しつつ、自分のためだけでなく、誰かのためにもうひと頑張りしてみよう、苦手なことにも挑戦してみよう、自分に出来ることをしてみよう、と思うのです。遅まきながら・・・

葎崎クラブ(27期) 山口 久美子 『知るは楽しみ』

コロンブスは、アメリカ大陸を発見したと言われています。コロンブスのように、大きな発見はできなくても、自分たちの身近なことに目を向けると新たな発見や気づきがあって、この発見が私たちに幸せにしてくれることに気が付きます。新しいことを知るといことは、楽しみなものです。27期のテーマを「知るは楽しみ」としました。プログラムや新しいお役に出会った時、どんな発見が待ち構えているか、今から楽しみですね。



彩玉クラブ(25期) 永井真澄 『改革への期待』

ITC の国際役員会が解散を宣言して、国際大会で決定されるという狭間で、今後どうなるのか判らないまま、クラブ会長を引き受けました。リージョンがどのように改革されるのでしょうか、期待を込めまして年間テーマを「改革への期待」と致しました。このテーマは、彩玉クラブの改革にも結び付けてゆきたいと思っています。今期は 25 周年でもあり、役員全員で良いプログラムを作成して、会員増員につなげる所存です。



横浜クラブ(25期) 田村 純子 『明日のために何をするか』



国際役員会から急に解散と通達がきました。その時に、ショックを受けました
2人新人が入会したのに、どう説明すれば良いのかと。
これからの ITC にとっては、微力の私ですが、明日のために何をするか、を考
えるのがとっても大事と思いました。

盛岡クラブ(23期) 柴田 さよ子 『明るく、楽しく、前向きに』



困難な事が多い ITC 活動ですが、全てをプラスに捉えていきたいと思います。

アクア千葉クラブ(20期) 寺西 キヌ子 『来し方、そして・・・』

我クラブも 20 年という節目の年となりました。ITC の意味も活動もよくわからず、
先輩の皆様のご指導を受けてよちよち歩きからのスタートでした。今まで経験したこ
とのないことの連続でしたが、会員みんなで作り上げていく例会の楽しさや、指導し
てくださる先輩会員の皆様の女性として人として輝いている姿に憧れたことを、今で
もとても鮮明に覚えています。この 20 年を顧みて、今期はその歩んできた道をさら
に深め価値あるものにすべく、会員一同で歩いていけることを願っています。

花巻クラブ(6期) 及川 セイ子 『適切な言葉で自己表現が出来る』

わたし自身の、話し方・伝え方＝相手に理解してもらいたい
起承転結のまとめでの話し方が出来る 時間を守る話し方を
人様の前でできるようになりたい＝(それが夢)という思いで入会をしました。
どんなことでも素直な気持ちで心からいろんな想いを夢を語り、みなさんと学びを深めてい
きたい。夢の話しが巡りますように。会員が少なくなりましたが出来事はその人にしか解ら
ない。



編集後記

三人とも初めてのお役で戸惑いましたが、原稿
をお寄せくださった皆様のお蔭で何とか仕上
がりました。有難う存じました。ご覧いただけ
ましたら幸いです。

